

稲城野草散策の会

野草スケッチ クサノオウ（ケシ科）



1996/07/02 稲城市坂浜 絵と文 T a

クサノオウの花期は長い。

5月頃から咲き出して、10月過ぎまで、どうかすると11月にも咲いていることがある。

花の時期は、日照時間（昼夜の時間比率）や温度に左右される。

クサノオウのようにだらだらといつまでも咲いている花はどういうメカニズムをもっているのだろう。

「こういう南方系の花は、要は、だらしがいいんだよ」と言っているのは、曽根先生であった。

曽根先生は私の植物師匠である。

若くして帰らぬ人となってしまわれたが、曽根先生からはずいぶんたくさんのお話を教わった。

いろいろな植物をみるたびに、教わったことが思い出される。

私が観察会で得意げに説明したあとで、ああ、これは曽根先生の受け売りだ、と気づくことも多い。

先生の教えは今も私の血となり肉となっているのだ。

当時、すごいと思ったのは、花がなくても植物名がわかることである。

まだ初心者域を出ていない私たちにとって、これは驚異だった。

枯草でも新芽でも実の残骸でも、樹皮でも、何か手がかりがあればそこから推理して同定してしまう。

先生は「直感分類法だよ」などととぼけておられたが、植物のライフサイクルをきちんと見ていなければできないことである。

先生は環境アセスメントの「調査屋」であった。

開発予定地域の植生を調べる仕事である。

調査は限られた期間内に終えなければならないことが多い。

花が咲くまで待ってられない。

そこで鍛えられた「直感分類」だということは後で知った。

もともと、先生は鉄工所を営んでいた、と伺ったことがある。

ある日突然、会社を整理（破産じゃないぞ、と念を押しておられた）して、植物の世界へ身を投じたのだそうである。

「図鑑を書き換えるような仕事をしたい」というのがそのときの志であった。

この志は、アメリカネナシカズラの発見により実現されている。

学者でもない者が、図鑑に名を残すのは、たいへんなことだったに違いない。

ところで、クサノオウはほんとうに南方系なのだろうか。

南方系なら、季節感を持っていないため、年中咲くことは考えられる。

どこかエキゾチックな雰囲気を持った花だが、それだけで南方系と決め付けるわけにはいかない。

クサノオウは日本以外にもあるのか、あるとしたらどこなのだろう。

通常の図鑑に載っている分布は国内に限られている。

調べても「分布：北、本、四、九」となっているだけだ。

これでは手がかりにならない。

「世界の植物（朝日新聞社）」に、東アジア、北アフリカ、ヨーロッパに分布するとの記載があった。

かなり北の方にも分布があるという資料も見つかった。

南方系かどうかは、結局わからなかった。

世界を歩き歩いているうちに、日本の四季にはとらわれない生き方を身につけた・・・これは私の想像である。

同属のヤマブキソウは日本固有種で、花期がきっちり決まっている。じつに対照的だ。

植物についてかなり詳しくなったつもりでいるが、まだまだ曽根先生の域には及ばない。

もっと勉強し、かつ、いろんな方と交流しなければ、といつも思うのである。

（2002年6月記）

* * * * *

〔観察記録〕 3月30日 奥高尾（木下沢・日影沢）

私は高尾駅に9時ごろ中央線で到着したのですが、立川を過ぎたあたりから車窓外の雨に気づきました。この日は終日曇りの予報だったのですが、残念ながら降り始めた霧雨は夕方までやむことはなく、しかも気温も低いままで、悪いコンディション下での観察会になってしまいました。

リーダーの広沢さんは小仏行きのバスで高尾のレンジャーをやっている方と乗り合わせ、今年の春はかなり早いとの情報を得ていたようです。実は2年前の大震災直後の定例観察会も同じ裏高尾で行っているのですが、この年の冬は寒く3月になっても気温が上がらぬままで、広沢さんからこれ以上歩いても花を観察することができないとギブアップ宣言があったことを思い出しました。

日影沢入口周辺には雨にもかかわらず48人が集合されました。まずは入口の橋周辺の散策路から観察を始めます。お目当ての一つだったハナネコノメも、赤

葎はほとんど落としていたものの、白い花は観察できました。ひとしきり入口周辺を歩いた後、日影沢を森の図書館方向に向かいます。一昨年はほとんど花を見ることができなかったスミレ類も一通り観察することができました。

さて森の図書館ですが、昨年の4月に火災によって全焼したという話は聞いていたのですが、関係各所のご尽力があったのでしょう、この日は再建工事の最中でした。森の図書館からは日影沢林道から別れているのは森に向かいました。いろはの森ルートを15分ほど登ると林道と交差します。ここで林道を森の図書館方面に下ります。下る途中に大きくて開放的な作りの建物があって、この屋根の下で雨を避けての昼食タイムとなりました。

午後は、日影沢から離れて、小仏川左岸の木下沢(こげさわ)林道に向かいました。こちら側でもいろいろな植物を観察することができましたが、午後になっても気温は一向に上がらず、霧雨もやむ気配がないため、2時半ごろにはバス停に戻り、少し早目でしたが観察会を終了しました。

▼観察記録(出現順)

マメザクラ(花)、アブラチャン(花)、カツラ、アズマイチゲ(花)、モミジイチゴ(花)、ニリンソウ(花)、タマアジサイ、ヨゴレネコノメ(花)、クサギ、キクザキイチゲ(花)、セントウソウ(花)、アオキ(実)、ユリウサビ(花)、ハシリドコロ(花)、ヤマブキ(蕾)、ウリノキ、マルバコンロウソウ(花)、ナガバノスミレサイシン(花)、コチャルメルソウ(花)、ハナネコノメ(花)、カントウミヤマカタバミ(花)、ネコノメソウ(花)、ウバユリ、ヤブデマリ、ラショウモンカズラ、アオイスミレ(花)、ツルウメモドキ、タチツボスミレ(花)、コクサギ(花)、サラシナショウマ、マルバスミレ(花)、ヤマネコノメソウ(花)、タカオスミレ(花)、サイカチ、トウゴクサバノオ(花)、ミヤマフユイチゴ、ミミガタテンナンショウ(花)、ヤマルリソウ(花)、エイザンスミレ(花)、カタクリ(花)、キハタ、マメツタ、タネツケバナ(花)、ケヤキ、ツルカノコソウ、ミズメ、リョウメンシダ、キブシ(花)、ハナイカダ、ツノハシバミ(花)、フサザクラ、マユミ、アキノタムラソウ、フイリヒナスミレ(花)、ハンショウツル、キジョラン、ミヤマキケマン(花)、カワラスゲ、ジュウモンジシダ、サルナシ、ヤマイタチシダ、クマワラビ、サイハイラン、ヤマエンゴサク(花)、ミツバツツジ(花)、シュンラン(花)、アケビ(蕾)、キランソウ(花)、ナツトウダイ(花)、ヒヨドリジョウゴ、セリバヒエンソウ(花)、ヒロハギシギシ、スイバ、カンアオイ(花)、ジュウニヒトエ(花)、ボタンツル、スイカズラ、カキドオシ(花)、カテンソウ(花)、ジロボウエンゴサク(花)、ヒメウス(花)、イワガネソウ、ダイコンソウ、ヤマコウバシ、ヒメウツギ、ウラシマソウ(花)、セリ、ヒロハコンロンソウ、コアカソ



会報100号に寄せて

広沢 毅



この会報も今回で100号を迎えました。

05/01/15 に1号を発行してから8年余にわたり会報を続けてこられたのは、ひとえに当会に参加された皆さまのご協力と暖かいご支持があったればこそ、という思いを改めて強く感じている次第です。

また、1号から変わらず編集・発行に尽力された尼子さんのご努力にも敬意と感謝を申し上げたいと思います。

さて、100号を達成したのだから、次は200号へ向けて・・・と言いたいところなのですが、残念なお知らせを申し上げなければなりません。

本会報は、100号を以って、終了いたします。

おどろきの声が聞こえそうで、本当に申し訳ないのですが、端的に言えば、続けることが困難になってきたことが打ち切りの理由です。

この会も平成元年に発足以来25年が経ち、むかし若かった世話役も毎年歳を積み重ねてまいりました。

以前なら何の苦もなくこなせたことが、だんだん難しくなっている、というのが偽らざる実態と申せましょう。

そのため、会の運営に関わる事務作業は、極力減らしていくことにしました。

毎年お送りしていた、年間行事計画の葉書も今年限りで打ち切って、ホームページに掲載するだけにしたのもその一環です。

会報の終了もその流れとしてご理解いただきたいと思います。

また、毎号の会報の冒頭に掲載していた植物画も、線画のソースがなくなってまいりました。

この点も会報を続けられなくなった大きな要因です。

ここで、余談にはなりますが、スケッチについて少し述べておきましょう。

会報に載せたスケッチは彩色していない線画です。

会報はモノクロ印刷を前提としましたので、彩色した絵では赤がベタ黒になったりして、見られない姿になってしまうこともあります。

そこで線画を使うことにしましたが、全部のスケッチに線画があるわけではありません。

私のスケッチは、まず線画を描いて、それをコピーしたものに彩色する、という方法をとってきました。

線画は、ざっくりとした下絵を鉛筆で描き、そのあと、ペンで輪郭と細部を描いていきます。

ペンは最初、製図用のペンを使いました（現在はゲルインクの 0.18mm ボールペン）。

ペンで描いた線は、簡単には消したり描き直したりはできないので、まさに真剣勝負です。

彩色については、水彩で薄い色から順に重ね塗りをして、仕上げていきます。

いまになって思えば、スケッチは線画こそが命なのですが、最初の頃は色づけしたものを残そうという気持ちが強かったため、線画に直接色を塗っていました。

その場合、線画は残りません。

しばらく経ってから、コピーしたものに色づけするという方法を思いついたので

す。

今回の会報に、この花を載せようと思っても、線画がないものは採用できません。

やむを得ず、彩色画から線画を起こしたものもいくつかありました。

こんな経験も、いまになれば、会報を続けてきた中での懐かしい思い出です。

植物スケッチとエッセイはHPから見ることができますし、いままでの会報に掲載しなかったスケッチも彩色されたものが載っています。

ぜひ、お暇な折にでもご覧いただきたいと思います。

会報はなくなりますが、会の活動までなくなるわけではありません。

いままでどおり、皆さんと楽しく観察会を続けたいと思っています。

至らない説明役ではありますが、これからもよろしくお願いいたします。



観察会の記録、行事予定などを資料に添付することを考えています。（尼子）

〔行事予定〕 2013/4/14（日） 三沢川下り

項 目	説 明
集 合	am10時、京王相模原線・若葉台駅 改札口付近 ※会旗目標 若葉台駅の改札口は一個所だけです
交 通	京王線調布駅から相模原線橋本行快速または各停で5駅目 多摩モノレールの場合、多摩センター駅で京王線に乗換えて2駅目 小田急線の場合は、永山駅または多摩センター駅で京王線に乗換え 若葉台駅には急行は停まりませんのでご注意ください
行く先 (解散場所)	若葉台駅から三沢川に沿って稲城駅まで歩きます。 稲城駅 pm4時頃解散予定
見所 その他	三沢川流域には雑木林や谷戸田など、豊かな自然が残っています ニリンソウなど春の花が見られると思います
地 図	
コース	若葉台駅→ふれあいの森→高勝寺→清水谷戸→学園広場→三沢川遊 歩道→稲城駅（解散） 行程5～6km、部分的に山歩きのような道もあります。足元はし っかりしてご参加下さい コースは天候その他により変更する場合があります

※小雨決行 参加申込み不要、会費当日300円

〔行事予定〕 2013/5/18 (土) 浅間山・野川公園

項 目	説 明					
集 合	am10時、京王バス浅間山公園バス停付近（新小金井街道） ※会旗目標					
交 通	京王線東府中駅から武蔵小金井駅南口行きバス(1時間に3本程度) JR中央線武蔵小金井駅南口から東府中（府中）行きバス(1時間に3本程度) 東府中駅から徒歩で、約1.6km（30分?） <table><tr><td>京王線 東府中駅</td><td>(3バス停)</td><td>京王バス 浅間山公園バス停</td><td>(8バス停)</td><td>JR 武蔵小金井駅</td></tr></table> 新小金井街道	京王線 東府中駅	(3バス停)	京王バス 浅間山公園バス停	(8バス停)	JR 武蔵小金井駅
京王線 東府中駅	(3バス停)	京王バス 浅間山公園バス停	(8バス停)	JR 武蔵小金井駅		
行く先 （解散場所）	浅間山公園から多磨墓地を抜けて、武蔵野公園、野川公園まで歩きます。「野川公園一の橋」バス停付近 pm4時頃解散予定					
見所 その他	ムサシノキスゲ、キンラン、ササバギンラン、ジュウニヒトエなどの花が見られると思います					
地 図						
コース	浅間山公園→多磨墓地→武蔵野公園→野川公園→「野川公園一の橋」バス停付近（解散） コースは天候その他により変更する場合があります ご用のある方は途中で抜けても構いません					

※小雨決行 参加申込み不要、会費当日300円